



KIDS DESIGN
AWARD 2025



もくじ

- 01 ————— はじめに
- 02 ————— アトリエ・バンライ-ITABASHI-とは？
- 03 ————— ここってどんな場所？
- 04 ————— バンライ大解剖！
- 05 ————— バンライで過ごすわたしの1日
- 06 ————— こどもたちと地域の未来のために
- 07 ————— 特別対談 | 専門家と考えるバンライの意義

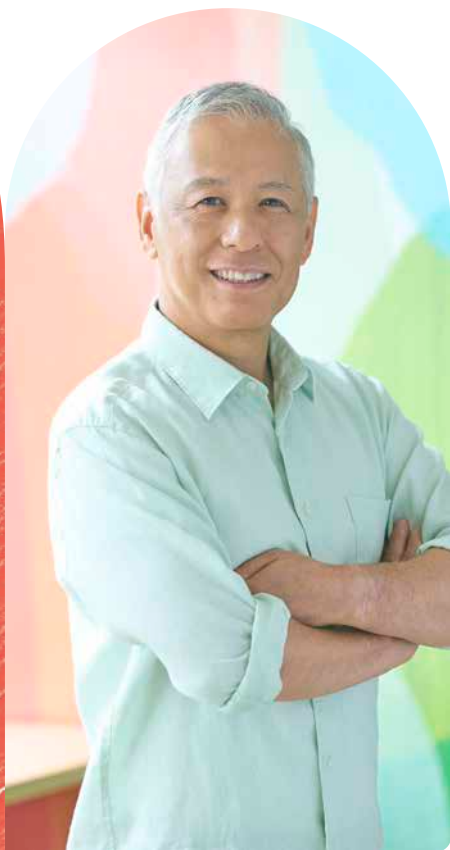
人生を豊かにする 体験や好奇心をもっと。

1人でふらっと来てもいい。みんなで来ても面白い。
ここは、いつもの毎日をちょっと楽しくするアトリエです。

ドアをあければ、好きが見つかる図書室がある。
初めての音楽や、新しい文化にふれるチャンスもある。
地域の人々と食卓を囲んだり、いっしょに映画をみたり。
特別ではないけれど、ちょっとワクワクする出来事や、
小さな発見がここにはあふれています。

さあ、千客万来。時間ができたら遊びにおいで。
ここにくれば、やりたいことがきっと見つかる。
そしてやりたいを応援してくれる人たちに出会える。
バンライは、新しい自分が始まる場所。

こどもたちの未来の可能性を広げ、 SMB Cグループが掲げる 「幸せな成長」の実現を目指して。



株式会社三井住友銀行 頭取CEO（代表取締役）

福留 朗裕

SMB Cグループは、「社会的価値の創造」を経営の柱のひとつに据え、特にこどもたちの教育・体験格差の解消に取り組んでいます。こどもたちが育つ環境や少子高齢化に伴う家族形態の変化等により、地域との繋がりが希薄化し、こどもたち同士の交流や学び合いの機会が減少することで、学校や家庭以外に地域で居場所を見つけることが難しくなっています。

本誌では、2025年4月に東京都板橋区に誕生した「アトリエ・バンライ-ITABASHI-」を創設するに至った背景や施設に関わっている人たちの取り組みを紹介しています。こどもたちの学びや体験を支援する居場所の運営を通じ、異なる立場の企業・団体等や個人が同じゴールに向けて一丸となり、将来を担うこどもたちのために考え行動していく、そのような社会を一緒に創っていきたくと考えています。

こどもたちの体験と放課後の居場所である「アトリエ・バンライ-ITABASHI-」の名称の「バンライ」には、「千客万来」と「Bank of Life（体験という人生の財産）」という二つの意味が込められています。また「アトリエ」には「物事が生まれ創造される場となってほしい」との願いを込めています。この施設に集うこどもたちの想像力や好奇心を育む多様な体験の機会を増やし、好きなことや得意なこと、また興味の対象を発見することは将来の可能性を広げ、生きていく力につながるはず、と私たちは考えています。

いつもの延長にある少し特別で楽しい時間、例えば普段読まない本を読んだり、聴いたことのない音楽に触れたりする機会も、こどもたちにとって将来、財産になる、その蓄えられた体験が、やがて社会の財産になっていく。未来につながる取り組みだと思っています。この「アトリエ・バンライ-ITABASHI-」創設に関わった人たちの施設に込めた想いを少しでも感じ、楽しく読んでいただけると幸いです。

株式会社三井住友フィナンシャルグループ
社会的価値創造推進部 上席推進役
シニアサステナビリティエキスパート
社会貢献統括

大萱 亮子





こどもたちの未来の
選択肢や可能性を広げるために。
その想いを銀行跡地でカタチにしました。

アトリエ・パンライは、
こどもたちに「体験の資産」を残すお手伝いを通じて、
今後の人生を豊かにするために欠かせない「好奇心という資本」を
提供する取り組みです。

三井住友銀行の板橋中台出張所跡地には、近くに住宅街や公園が
あるため、こどもたちの「行きたい」「居たい」「やってみたい」を
実現する新しいこどもの居場所に適していると
「アトリエ・パンライ-ITABASHI-」が創設されました。



いつもの続きにある、
ちょっと楽しいこと。
こどもたちが
そんな体験に出会える
場所でありたい。

パンライは、こどもたちが様々な
体験ができる放課後の居場所として
創設しました。

SMBCグループの運営のもと、
我々のリレーションを活かして、
様々な企業や団体の方々にご協力を
いただき、多様なプログラムを
提供しています。

また、地域のこども食堂に施設を
開放し、定期的な地域の
交流の場としても活用されています。





開放感あふれる吹き抜けの
空間にはたくさんのモビールが！

ロゴが一面に広がる
カラフルな壁



トークンポストと
お揃いのデザインで
作られた特別な
受付でお出迎え！



思い思いの過ごし方を
後押ししてくれる
多様で心地のよい椅子



体験プログラム終了後は
体験に応じたカラフルな
トークンをポストに！



SMBCの森の
間伐材から生まれた本棚と
リクエストボックス



ここにいるだけで
楽しい気持ちになれる個性豊かなランプ

2Fには最大72名着席できる
ダイニングスペース
「バンライカフェ」が！



「食」にまつわるロゴが
カフェの空間のアクセントに！



こどもの背丈に
合わせて設計された
自動水栓で
いつも清潔に



こども食堂には
SMBCグループの企業より
新鮮な野菜を毎週提供



毎月バンライで開催することも食堂では、
幅広い年代の方が参加しており、
地域の交流の場となっています。

ブアメリア 中台若木カレー食堂
田中さん



2F

社員食堂だったスペースが、バンライカフェへと大変身。プログラムで料理をしたり、子ども食堂で食事をしたり、みんなが“食”をテーマにつながる場所です。



1F

本と日差しに包まれた気持ちのいい空間で、勉強をする子もいれば、友達とおしゃべりする子も。その日の気分に合わせて自由に過ごせる場所です。



思い思いの過ごし方ができる わたしの居場所

安済さん
の1日

15:10 入館



16:00 宿題をする



16:30 読書の時間



17:30 退館



山谷さん
の1日

15:00



15:50 入館

16:00



16:00 プログラムに
参加

17:00



17:15 友人とゲーム

18:00



18:00 退館



施設を紹介する
コンセプトムービーはこちら

アトリエ・パンライには読んだことの
ない面白そうな本がたくさんあって、
何回来ても楽しいです！

4年生 安済さん



ここに来れば、みんないて一緒に遊べるのが楽しいです！
体験プログラムを通じて新しい発見もできます。
落ち着いた雰囲気でも過ごせるためリラックスもできます！

5年生 山谷さん



はじめての体験も新しい挑戦も きっと宝物になる。

バンライでは、様々なプログラムを開催しています。
企業・団体の方から学んだり、学校ではできない体験をしたり、
新しいことにチャレンジできます。

うどんづくり体験



トマト栽培



野菜の楽しさを伝えることで、
こどもたちの笑顔やまじめに
取り組む姿勢に出会い、
ワクワクしながら
プログラムを進めています。

カゴメ株式会社
吉田さん



サイエンス



金融経済教育



医療現場で使う薬で
ワクワク実験。
みんなで「どうなるの？」と
予想し、色の変化に驚きや
発見の声が上がりました。

学校法人昭和医科大学
肥田さん



板橋区 子ども家庭部長
関 俊介さん



板橋区立緑小学校 校長
市之瀬 輝明さん



特定非営利活動法人
放課後NPOアフタースクール
阪田 裕里子さん



株式会社三井住友
フィナンシャルグループ
大萱 亮子さん

板橋区×アトリエ・バンライが描く こどもたちと地域の未来

官との力を連携することで得られる
こどもたちの未来を育む居場所とは

大萱 バンライがオープンしてから、こどもたちが想像以上に
楽しみに来てくれている様子に、ほっとしています。

市之瀬 こどもたちからは学校の図書室にはない興味をひく本がたくさん
あったり、いろいろな体験プログラムに取り組めるのが楽しいと。学校の先生や
友達以外で話を聞いてもらえる大人がいる、という話もしてくれました。

阪田 バンライは施設のスタッフ、体験プログラムを
実施いただく企業など、先生や保護者とはまた違った視点をもった
大人がこどもたちを見守ることで、こどもたちの自由な発想や
新たな挑戦につながる居場所となっていると感じます。

関 板橋区は10年前に「いたばし子ども未来応援宣言」のもと、
子育て支援策に力を入れてきました。ただこどもたちの多様なニーズに
対応するには行政の力だけでは限界があり、今後はこのような
民間企業との共創アプローチが重要になってくると思います。

市之瀬 学校からみても、こどもたちが民間企業のノウハウや
専門性を学べるのは、とてもありがたいことです。

大萱 ありがとうございます。
我々は日頃の業務を通じて様々な企業とのリレーションがあり、
バンライにも活かされていると考えております。

こどもたちにとって放課後の時間は
自分たちの未来をつくる力を育む

関 バンライが掲げる「体験の資産を残す」は、まさに板橋区も
目指しているところです。体験をきっかけにダンスを習いたくなって、
将来は自分がダンスを教えたり、そんな興味のきっかけに
つながる体験の場が作れると一番いいですね。

市之瀬 遊ぶ、くつろぐ、好きなことに触れる。自分らしくいられる
時間のなかでの経験は、自主性や探究心が育つきっかけになります。
バンライが放課後の“もうひとつの学びの場”として
地域に根づいていけば、こどもたち自身の成長だけでなく、
地域の力にもつながっていくと感じています。

阪田 最近はこちら自身が運営に関わる姿も増えてきて、
ここは「ひとつの社会」としての輪郭を持ち始めているようにも思います。
これからもここで、社会性を育んでいってほしいですね。

大萱 地域の方々や保護者、学校関係者、板橋区の方、皆さんに
「いい場所だね」と思っていただけですが、
こどもたちの居場所に欠かせない要素だと、改めて実感しました。
ここで誰かと一緒に過ごすこと、一緒に体験すること、
そうした小さな経験のひとつひとつが財産となり、こどもたちの将来の
可能性や豊かな成長につながっていくことを願っています。





文教大学
人間科学部人間科学科 准教授
青山鉄兵さん

フリーアナウンサー
政井マヤさん

特別対談

「様々な体験」が子どもたちを育てる

社会教育学の専門家の視点と、子育ての当事者である保護者の視点から見たアトリエ・パンライ-ITABASHI-の意義とは？

青山 初めてパンライを訪れましたが、開放感のある造りの中にたくさんの本が同居していて、子どもたちが思わず本を手にとってしまう空間にデザインされているのいいですね！

政井 空間全体が、カラフルで生き生きとしていて、子どもたちが自由に過ごしている様子が自然と伝わってきます。

青山 「自由に過ごせる」ことは、子どもたちの「居場所」として大切な要素のひとつです。本来居場所とは主体的なものです。今は放課後も、“役立つものを大人が与えてしまっている”場合が多くみられます。

政井 確かにそうですね。私自身子どもが自由に考え、主体的に行動したり、選択したりする機会をなかなか作れていないかもしれません。ついお膳立てしがちで、機会を奪ってしまっているかもしれません。

自ら選択することが
子どもたちの
生き抜く力を育む

青山

やりたいことを選択する自由を守ってあげることが今一番難しいです。大人はどうしても、“○○力を伸ばす”などと意図的になりがちですが、それらは結果として得るもので、目的化すると子どもにとっては窮屈です。

政井

いろいろな人との交流や様々な体験をすることに学びがあるんですよね。その前提として子どもが安心できる場所で過ごす必要があります。



子どもたちが大人の目を気にせず、自分たちで考える機会を持つことができる。パンライでは日々いろいろな体験もできますが、何もしないという選択もできますね。小学校高学年の子どもたちに最高の環境だと思います。

青山

自分はここにいて自由に過ごしていい。同じように隣の人も自由に過ごす権利があることをお互いに認めあえる。パンライがそんな居場所になってほしいですね。



開館時間

●4月～9月 月・火・木・金 OPEN 14:00 / CLOSE 18:00
●10月～3月 月・火・木・金 OPEN 14:00 / CLOSE 17:30
最終入館はCLOSEの15分前(新規来館の場合は30分前)までとなります。
こども食堂の実施日は、こども食堂を利用しない方は17時までの退館となります。

休館日

水・土・日・祝
※イベント開催時は開館します
※夏休みなどの長期休暇は別途開館時間をご案内します

利用料金

原則無料

アクセス

東京都板橋区
中台3-27-7サンシティ内
都営三田線 志村三丁目駅から徒歩12分

パンライの
WEBサイトは
こちら！

